

第3次八戸市環境基本計画に係る検討事項と修正内容
(前回環境審議会の保留案件分)

①	修正素案 (その3) P1	第1節 計画策定の背景と目的	質問者	会長
検討事項 (質問)	地球環境を取り巻く状況、国内外の情勢を整理した上で、環境基本計画を策定する趣旨をなるべく簡潔に整理していただけないでしょうか。			
修正内容	○ 御意見を踏まえ、「計画策定の背景と目的」の内容を簡潔に整理しました。			
②	修正素案 (その3) P1	第1節 計画策定の背景と目的 の記述について	質問者	委員
検討事項 (質問)	さて、「素案」にはどんなことが書いてあるか？と期待してP1を開くと、42行、1行43文字の文章が目飛び込みます。 「改訂版」31行から10行余り増加して、びっしり1ページに詰め込まれています。SDGs等の必要な説明が加わったためと思われます。 については、目次の後頁のカラー写真3枚を目次の前のページに移して、「素案」P1はタイトルの通りに、「計画策定の背景」と「目的」とサブタイトルを設けて、2ページにして記載してはいかがでしょうか。			
修正内容	○ 御意見を踏まえ、「計画策定の背景と目的」の内容を簡潔に整理しました。			
③	修正素案 (その3) 全体		質問者	会長
検討事項 (質問)	計画における重要な事項(用語)については、資料編⑥用語解説とは別にコラム欄を設け、わかりやすく解説して下さい。			
修正内容	○ 御意見を踏まえ、重要な用語等について解説する欄を設けました。 なお、解説している用語は次のとおりです。 パリ協定(P2)、SDGs(P2)、地域循環共生圏(P4)、 はちのへクリーンパートナー(P20)、カーボンニュートラル(P24)、 国民運動「COOL CHOICE」(P24)、3R(P27)、食品ロス(P27)			

④	修正素案 (その3) 全体		質問者	会長
検討事項 (質問)	八戸市として重点的に取り組む施策をわかりやすく示して下さい。			
修正内容	○ 環境基本計画は、環境分野の施策を総合的に整理し、関連する実施計画等の方向性を示すものとして位置づけられていることから、計画上は重点的に取り組む施策について、特に示さないこととしたいと考えております。			
⑤	修正素案 (その3) 全体		質問者	委員
検討事項 (質問)	基本目標について、市として2030年までに優先しなければならないところを一番最初にもってくるべき。今回の場合だと、脱炭素に関する取組が一番ではないか。			
修正内容	○ 基本目標の掲載順（構成）については、目指す環境像「人と自然が共生する持続可能な都市 八戸 ～環境・社会・経済のバランスがとれたグリーン社会の実現～」とのつながりを考慮し、原案のとおりとしたいと考えております。 (原案) 基本目標 1 自然共生社会づくり 基本目標 2 快適環境社会づくり 基本目標 3 脱炭素・循環型社会づくり 基本目標 4 良好な環境を支え次世代へつなぐ人・仕組みづくり			
⑥	修正素案 (その3) P9-38	第3章 各節	質問者	会長
検討事項 (質問)	現行計画における目標達成度や課題分析を示して下さい。			
修正内容	○ 御意見を踏まえ、各効果指標の参考として、現行計画における目標達成度を示すとともに課題分析を行いました。(修正箇所は、素案の下線部分です) また、第3章各節において、基本目標に関連する環境項目ごとの現状と課題の内容を整理し直しました。(修正箇所は、素案の下線部分です)			

⑦	修正素案 (その3) 第3章 各節 効果指標について P9-38	質問者	委員
検討事項 (質問)	<p>「効果指標」(資料1-1 p2 下から3行目)について、関連する環境項目に係る効果指標であるため、環境項目とともに特に変更なし(資料1-3参照)とあります。配布された素案「第3次八戸環境基本計画」素案(以下、「素案」という) p12、第3章第2節快適環境社会づくり(3)効果指標の表が載っています。</p> <p>当審議会では事務局から資料1-3について丁寧な説明がありましたが、「素案」では特段の説明が無く、表が掲げられています。平成30年3月「第2次八戸市環境基本計画(改訂版)」(以下、改訂版)という)ではp12~p13効果指標はそれぞれの指標の期間における推移の表とグラフを示して、目標値の意味を理解しやすく補足しているように思えます。ついては、「素案」においても「改訂版」のように「効果指標」はそれぞれの指標の期間における推移の表とグラフを示して補足してはいかがでしょうか。</p> <p>以下、「素案」第3節、第4節も同様にそれぞれの指標の期間における推移の表とグラフを示して、目標値の意味を理解しやすく補足してはいかがでしょうか。</p>		
修正内容	<p>[環境政策課]</p> <p>○ 御意見を踏まえ、各効果指標に係る過去5年間の推移をグラフや表により示しました。</p>		
⑧	修正素案 (その3) 第3章 第4節 P38 良好な環境を支え次世代へつなぐ人・仕組みづくり 効果指標について	質問者	委員
検討事項 (質問)	<p>効果指標のうち、市内の環境マネジメントシステム認証取得事業者数について、目標値は現状と同じになっていますが、増加させる目標としなくてもよいのでしょうか。</p>		
修正内容	<p>○ 当市においては、主として製造業や建設業、運送業などで環境マネジメントシステムの認証取得が進んできたところですが、事業所数自体が減少していることや、認証の有効期間を更新せず自己適合宣言(自社独自のマネジメントシステム)に移行する事業者がいることなどから、減少傾向にあるものと考えられます。(令和3年度実績値は49事業者)</p> <p>このような傾向は、今後も続くものと予想されますが、環境マネジメントシステムは、事業者の自主的な環境保全の取組を広めていく上で効果的な手法であるとともに、経費の削減やビジネスチャンスにもつながりうるものであることから、導入が進んでいない業種を中心として普及啓発を図ることにより、新たに環境管理に取り組む事業者を確保していきたいと考えております。</p> <p>そのため、目標値については、これまでの実績を踏まえつつ、前計画(第2次環境基本計画)に掲げた「60事業者」に設定しました。</p> <p>○ また、その他の効果指標についても再整理しましたが、そのうち2つの指標を次のとおり見直しました。</p> <p>・ 第2節「快適環境づくり」の効果指標(P19) :「はちのへクリーンパートナーとして清掃活動に参加した人数」 はちのへクリーンパートナーとして清掃活動に参加した人数については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、特に学校などによる大規模な清掃活動が中止となったことなどから減少したものと考えられますが、引き続き情報発信に努め、今後の活動を促進していきたいと考えております。(令和3年度実績値は3,922人)</p> <p>そのため、目標値については、これまで活動に参加したことのない学校等の主体に対して周知を図ることなどを踏まえ、「6,600人」に設定しました。</p>		

・第4節「良好な環境を支え次世代へつなぐ人・仕組みづくり」の効果指標（P37）

：「環境教育関連事業の参加者数」

効果指標として小学生を対象とする環境学習会の参加者数を示しておりましたが、その他にも地域住民向けのエコツアーや出前講座、高校生向けの環境講話などにも取り組んできたこと、また、子どもから大人まで幅広い環境教育・学習の機会を提供していく必要があることなどを踏まえ、今後取り組んでいく全ての環境教育関連事業への参加者数を指標としました。

これまで本市が取り組んできた環境教育関連事業への参加者数は、新型コロナウイルス感染症や人口減少の影響により、減少傾向にあるものと考えられますが、より幅広い年齢層や主体に対する学習機会の提供に一層努めていきたいと考えております。

（令和3年度実績値は1,292人）

そのため、目標値については、中小企業向けの省エネセミナーなど、新たな取組も視野に入れ、「1,800人」に設定しました。

※ 脱炭素施策に関連する効果指標については、同時期に策定する第2次八戸市地球温暖化対策実行計画区域施策編と併せて整理していきます。

（その他の修正）

これまでの環境審議会において、「市民の行動指針」について価値観の衝突がおきないように留意してほしいとの御意見をいただいたことや、市民の皆さんが理解しやすいよう計画の概要版を作成する予定であることを踏まえ、第3章各節の「市の施策方針」、「市民の行動指針」、「事業者の行動指針」の表現を修正しました。（修正箇所は下線部分）